

岩谷学園ひがし北海道 IT 専門学校

令和 7 年度 学校関係者評価委員会報告書
(評価対象期間:令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月)

I 学校関係者評価委員会実施要項

開催日	2025 年 10 月 24 日(金) 16 時～17 時 30 分
開催場所	岩谷学園ひがし北海道 IT 専門学校 106号教室
参加者	【学校関係者評価委員】 長谷川 周栄 岩谷学園ひがし北海道校後援会 天野 英典 中標津町役場経済部 山宮 克彦 中標津町教育員会 中西 聖 北海道中標津農業高等学校 【教職員】 菅野 三夫 校長 五十嵐 一成 科長 大谷 昌生 教務主任
評価対象	地域未来情報テクノロジー科2年制 農業酪農 IT コース・商工業観光 IT コース
配布・公開資料	事業実績報告書／学校自己点検・自己評価表／ 教育課程及び授業時数表

■ 委嘱状手交

■ 校長挨拶

■ 委員紹介

委員の出席および委員会成立を確認

2 令和6(2024)年度の学校事業概要報告

学校行事について	
	・開校記念式典(4/8) ・開校記念レセプション(4/8) ・入学式(4/10)

	・開校記念お披露目会(6/22) ・「岩谷学園 ×根室振興局 根室振興局」包括連携協定事業 「現在と近未来の DX 技術」新採・新人生セミナー講師(7/8) ・なかしべつ夏祭りへのブース出展(8/10～11) ・総合学習講師:根室市立光洋中学校 中学校3年生の(出前講座)(8/23) ・まちなか賑わい秋の陣へのブース出展(9/8) ・総合学習講師:根室市立北斗小学校6年生(出前講座)(9/18) ・標津町文化祭へのブース出展(10/20) ・根室管内高等学校情報科教育研究会 講演講師(12/3) ・総合学習講師:別海町中央小学校 5年生・6年生(12/20) ・総合学習講師:別海町中央小学校 6年生(出前講座)(1/17) ・中標津町立丸山小学校 プログミング委員会(出前講座)(1/22) ・なかしべつ冬まつりへの出展(2/1～2) ・北海道高等学校理科研究会 講演講師(2/8)
教育交流事業について	
	・地域課題解決プロジェクト 地元企業に対するデータ分析プロジェクトの実証実験 (2024 年 11 月 1 日～2025 年 10 月 31 日) ・ロボットの仕組みとプログラミング制御を科学する ～プログラムでロボットを動かそう in 中標津～(7/6) ・モノづくりと電子回路でプログラムを学ぼう ～電子工作でデジタル時計を作ろう in 中標津～(8/3) ・モノづくりと電子回路でプログラムを学ぼう ～電子工作でデジタル時計を作ろう in 中標津～(8/17) ・超ワカモノ会議(ワカモノプロジェクト編) ねむろ地域の魅力をどのように発信するか、参加者同士の意見交換、情報交換(9/20) ・超ワカモノ会議(IN ミーティング国際編) 日本語学校、IT 専門学校の学生と根室振興局との交流及び情報交換(多文化共生、地域の魅力)(12/11) ・ロボットの仕組みとプログラミング制御を科学する ～給餌 ロボットを考えよう in 中標津～(12/21) ・知床ねむろプログラミング大会 プログラミング的思考力を醸成し、DX 人材の育成や学校教育活動の充実を図った (1/11) ・ロボットの仕組みとプログラミング制御を科学する

	～プログラムでロボットを動かそう in 根室市～(3/9)
外部表彰について	
	・北海道 ウッド ビルディング登録(北海道産木材使用の建物認定:中標津町内初)「北海道知事 12/2」 ・交通安全のハンドサインでストップ運動短編動画制作の感謝状 「中標津警察署長 1/10」
外部から受託した事業や研修等について	
	・交通安全のハンドサインでストップ運動短編動画制作 交通安全のハンドサインでストップ運動短編動画制作の依頼 「中標津警察署 7/26～9/10」

3 基準項目ごとの学校関係者評価・意見等

令和 6 年(2024 年)度の教育課程及び授業時数表によりカリキュラム概要を説明し、自己点検評価報告をもとに、基準項目ごとに学校から説明がなされ、評価を行った。

	主項目	評価
1	教育理念・目標	目標とする人材像を定め、教育活動に取り組んでいる。 特色のある教育活動への取り組みをしている。 課題として、社会が常に変わることを意識しながら、求める人材像を育てる体制を整えていく必要がある。 将来、留学生が多く在籍した場合に生活指導員の検討が必要である。 プロジェクト学習など問題発見、ディベート、問題解決案など学生にも考える時間を多く与える取り組みが期待される。
2	学校運営	新設校ではあるが学校として学校運営の基本はできている。特色あるカリキュラムであることから、企業連携による外部講師(非常勤・スポット)の取組は評価できる。2025 年度は、多くの留学生が在籍していることから、今後更に多様な背景を持つ学生への適切な職員体制(日本語教育など)の検討が必要である。
3	教育活動	教育活動についても基本はできしており、コースごとに特徴のある

		教育活動を展開している。 2025 年度は、多くの留学生在籍していることから今後は、開示したシラバスに沿って授業を展開しているか、授業報告・出席状況を正確に記録し、見直すことができる体制を整えているかなどに注意を払って欲しい。
4	学修成果	質の高い教育活動を展開し、それぞれの学科において良好な学習成果を上げている。 学生の自己評価パフォーマンスアセスメントが実施されており評価できる。 根室振興局、教育局との包括連携協定により多文化共生、DX、産業振興、情報教育、防災などの学校行事を実施することができ、長期的な継続と発展を期待する。 これらの学習成果の外部への発信が充分ではなく課題となる。
5	学生支援	在校生に対しては、相応しい支援がなされている。 欠席者へのフォローや、定期面談、必要に応じた面談など、对学生の為の時間をしっかり取っている。 体調不良により 1 名が進級できなかったが、もう一度 1 年生からやり直すことになり、しっかりと対応が来ている。 支援金については、留学生の町役場からの支援制度はあるが、日本人に対しては無い。生活費負担増や授業料高騰、奨学金返済問題への支援体制の強化が課題として挙がっている中で、返済不要の給付型奨学金拡充検討が必要となってくる。 積極的な課題として、2025 年度は、多くの留学生在籍していることから今後は、多国籍の学生に対応するためのスクールカウンセラーの検討を提案した。
6	教育環境	教育環境として専修学校設置基準を満たしており、基本はできている。

		校舎周辺の環境整備「駐車場の舗装化、実習地の施設整備など」は今後の学生確保の兼ね合いを見ながら中長期的な計画が必要である。 課題としてはデジタル格差の顕在化、ICT 機器格差、オンライン授業適応困難、情報リテラシー不足などである。
7	学生の受け入れ募集	新設校ということもあり初年度は大変厳しい一桁台のスタートとなり、2025 年度も 50% 弱の学生数となっている。 課題としては、地元学生の志望情報の不足、広報チャネルの幅を広げること、広報における新たなメディアの活用検討などである。 そんな中で、進路先ではなくても地域の方が足を運ぶコミュニティとして利用頂けるようイベント等が実施されており一定の評価ができる。 IT 専門学校が尖ったイメージが先行していないかとの懸念から、ゲームなどの感心の寄せやすい取り組みを提案した。 また、大学編入学の道を確認していくことをスピード感を持って取り組みことを提案した。
8	財務	定員を満たす学生数確保が最も重要であり、学生から選ばれる学校として継続していけるよう、教育の質の維持また向上の検討が必要である。
9	法令等の遵守	高等教育修学支援新制度対象校認定など、専修学校設置基準の要件を満たすだけでなく、適正な運営をしていると捉えられる。 個人情報保護のための対策を実施し、また著作権に関しても授業目的公衆送信補償制度（SARTRAS）を活用し、著作権法第 35 条の運用指針に対応している。 また、個人情報や肖像権に関する研修を教員向けに実施している。 また昨今学校現場では、教員の盗撮事件が出ており、その対策としての規定づくりなども検討して欲しい。 岩谷学園全体として、施設に録画・録音装置を予定している報告があった。

10	社会貢献・地域貢献	地域貢献事業として根室管内をメインに、情報教育促進のため講演会、研修会、相談会などを無償で実施しており（実績：15事業）評価できる。 根室管内の小・中・高校でプログラミング教育の支援を実施し、教材としてレゴロボットを持ち込んで授業を行っている。これが非常に効果的でロボットを使うことで実際に動きを伴う学習が可能になり、生徒の興味を強く引付けることができている。第1回知床ねむろプログラミング大会を開催し将来は、全国・世界的な大会を夢見ている。 また、学生が北海道警察のハンドサインでストップ運動に関する短編動画を制作し、周知に貢献したとして感謝状を受けた。 これらを踏まえて今後、STEAM 教育実践（地域課題を教材化）に活かされることを期待したい。
11	国際交流	根室振興局、教育局との包括連携協定により多文化共生の推進事業「企業・団体・学生（留学生・日本人）のワークショップ」を実施している。 2025 年度は、11ヶ国から留学生が在籍しており、多国籍の学校の国際的な視野を広げる人材育成に取り組んで欲しい。

総評

新設校であることから学生確保が課題であるが、安定した運営、経営ができるよう努めて欲しい。

岩谷学園ひがし北海道日本語学校は、だいぶ覚えてもらえるようになってきたが、IT専門学校は、まだ殆ど知られていない。皆さんに知ってもらえるように様々な地域活動を積極的に実践している。2025年度には、専門学校の留学生が5分の4以上を占めており、留学生と日本人が一緒に学び、国際的な視野を広げる人材を育成している。

多文化共生への学校の取り組みとしての多様性は「教育資源」と言えるので、日本語学校と北海道校として連携をして欲しい。

日本で唯一、教育と地域と産業が一体となる学びを実現するために、地元企業の方々が率先して協力を申し出て、経験豊富で専門性の高い講師陣が現場で役立つスキルと知識を教えている。町を挙げて官民協働により誘致した学校を守り育てる熱意を実感している。

学生から選ばれる学校として継続していけるよう、教育の質の維持また向上のために努めて欲しいし、評価委員もそれぞれの立場で支援・協力していきたい。